


ボリビア共和国		首都	ラパス（政治的）スクレ（憲法上）
 <p>赤が独立のために流された勇士の血を、黄は鉱物資源を、緑は豊かな森林資源を表している。中央の紋章は州を象徴する図柄となっている。</p> <p>独立：1825/8/6 スペインより 国連加盟：1945/11/14 政体：共和制</p>	国の概要	国土	面積 109万9,000 km <sup>2</sup> （日本の約3倍） 南米大陸中央の内陸国で、西部は6,000m級の高峰がそびえるアンデス山脈、中央はアマゾン川上流の溪谷地帯を持つ高原、東部は大森林に覆われた平原、南部はグランチャコとよばれる大草原地帯である。ペルーとの国境には航行できる湖としては標高が最も高いチチカカ湖がある。
		人口	920万人
		言語	スペイン語（公用語）、ケチュア語（公用語）、アイマラ語（公用語）、グアラニ語、チキタノ語
		通貨	ボリビアーノ
		気候	アンデス山系の高原地帯（高度3,000m以上）は亜寒帯で日中平均気温は12℃、夜間は氷点下まで下がることもあり、日気温較差が激しい。溪谷地帯（1,800m～3,000m）は温帯から亜熱帯の様相を呈する。平原地帯は熱帯である。雨季は9～3月、乾季は4月～8月である。但し、これはアマゾン地域の気候で、アンデス山系、中央など、地方によって違う。
		民族	インディオ 55%、メスティソ（白人とインディオの混血） 32%、ヨーロッパ系 13%
		宗教	カトリック 95%、プロテスタント
教育制度の概要	学校体系	・6歳からの初等教育が8年間、中等教育が4年間、大学が3～5年間となっている。	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6歳から13歳の8年間の初等教育が義務教育期間であるが、経済的な理由により就学できない子どももいる。現在の大統領になってから、全員行けるように変わりつつある。</li> <li>・学校によるが、一般的にその年の3月31日までに満6歳になる者は、その年の2月最初の月曜日に義務教育の第1学年に入学する。</li> <li>・公立の場合授業料は無料である。教科書等はほとんどの学校ではコピーをして使っている。</li> </ul>	
	日本と比較した教育課程上の特徴	・学校年度は2月上旬～11月上旬で、3学期制をとっている。1学期は2月上旬～4月下旬、2学期は5月中旬～7月下旬、	

		<p>3 学期は 8 月上旬～10 月下旬である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11 月は補習及びテスト期間である。</li> <li>・ 公立私立とも午前・午後の 2 部制をとっているところが多く、最近ではあまり見ないが、午前と午後で別の学校が使っているということがある。学校施設不足などの理由により 1 つの校舎を 3 つの学校が共有するケースもある。</li> </ul>
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各州に国立大学が 1 校、首都ラパスやサンタクルスには私立大学がある。</li> <li>・ 私立では、高校を修了して大学へ進学する者が多い。大学は、入学は簡単だが、卒業は難しい。(大学にもよるが、入学者の 50%ぐらいが普通年度で卒業、残りは何年もかかるか退学する)</li> <li>・ 公立では、義務教育終了後、社会に出るか、公立大学へ入学する場合が多い。経済的理由により、働くか公立大学しか選べない。</li> </ul>
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 義務ではないが、都市部の場合はほとんどの子が幼稚園に通う。地方農村部には幼稚園がないことが多く、いきなり小学校へ入学する。</li> <li>・ いくつかの私立校の場合は、幼稚園が一貫教育の一段階として義務付けられており、対象は幼稚園が 4 歳から、保育園は義務ではないが 1～5 歳である。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育・文化省が教育全体を統括している。</li> <li>・ 私立校は、(幼)・小・中・高までの一貫教育を行っていて、公立に比べ教師、教育設備などに優れ、教育水準も高い。</li> <li>・ 公立校では、学費が教材費以外はほとんどかからないが、教職員のストライキが多く、年間カリキュラムの消化に支障の出る場合もある。</li> </ul>
学 校 生 活	休業期間	・ 夏季休業は 11 月末～約 2 ヶ月間、冬季休業は 6 月末～約 2 週間となっている。
	学級担任制、 教科担任制等	・ 日本と同様である。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落第は小学校からある。</li> <li>・ 各教科を 70 点満点で評価し、35 点以下は落第の対象となる。追試を受ける。</li> </ul>
	教育内容の差異	・ 清掃活動はない。
	学校行事の特徴	・ 学校創立記念日、母の日、独立記念日、州の記念日、こと

		もの日、教師の日、遠足(年2回)、スポーツの日(年数回)、展示会(絵画等)
	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立小学校では、牛乳とビスケットは支給されるが給食はない。</li> <li>・一般に午前の部は昼までで終了するため、帰宅して昼食となる。但し校内に食堂や売店があり、午後まで残るときは利用できる。</li> </ul>
	チャイムや号令	・日本と同様である。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間厳守が求められ、遅刻を5回すると1日の欠席扱いとなる。</li> <li>・制服がある。</li> <li>・アクセサリや携帯電話は学校によって認められている。</li> </ul>
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・私立校の場合、教師は親との連絡会を各学期に設け、子どもの学習状況等を発表する。個人的に面談の必要があれば、文書にて知らせる。
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午前部の子どもは、スクールバス利用のときは朝7時ごろに家を出る。軽食程度のものは持参する。校内でも軽食は売っている。帰宅後昼食をとり、その後宿題や趣味の時間にあてる。</li> <li>・午後部の子どもは、コンピュータ、英語、ギター等を趣味的に習っていることが多い。帰宅後は宿題を行う。</li> <li>・就寝時間は家庭によって違う。パーティがあるときは、午前1時~2時に帰宅することもある。</li> </ul>
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授言語は、主として、スペイン語だが、地方によっては、アイマラ語、ケチュア語、グラア二語等現地の言語が用いられている。</li> <li>・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「シ」と「チ」の区別がつかない、「ヤ行」と「ジャ行」の混同、「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。</li> </ul>
	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーニバル(謝肉祭)の火曜日にチャヤ(お浄め)を行う。家等を購入した際にもチャヤを行う。</li> <li>・家の中で傘を干すのは運が悪いとされている。</li> </ul>
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食はパンとコーヒー程度、昼食はスープと肉料理が主で、十分時間をかけて食べる。午後4時ごろお茶の時間がある。夕食(午後9時位)は比較的軽い。</li> <li>・主食は、じゃがいも、米、とうもろこしで、野菜、果物、</li> </ul>

	牛乳、卵も時々食べる。アンデス地方では、トマトととうがらしで作ったソースを料理の味付けに使う。
衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立校では制服が指定されており、公立校では白衣着用が義務付けられている。首都ラパスは湿度が低いので化繊の服を着る人が多い。</li> <li>・都市部では、ビルが密集して、近くには高級住宅地もある。</li> <li>・農村部では、ほとんどが日干しレンガでできた 2～3 部屋の小さな家で、屋根はトタン板か瓦葺である。</li> <li>・住居内は土足で、玄関はもちろん各部屋に鍵をかける習慣がある。アパートでは外部から洗濯物を見えないようにする習慣がある。</li> </ul>
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車は右側通行である。バイクは免許がいらない。自動車の免許は 18 歳から取得可能である。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正式の登録される氏名には父方及び母方の姓をつける。つまり、ファーストネーム 1 (+ファーストネーム 2) + 名字 (父方) + 名字 (母方) である。名字 3 (父方) + 名字 4 (母方) まである子もいる。</li> <li>・学校ではファーストネームで呼ばれる。</li> <li>・18 歳以上の男子には 1 年間の兵役がある。</li> </ul>

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・青年海外協力隊員の活動・・・・・・・・・・・・・・・・JICA
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子